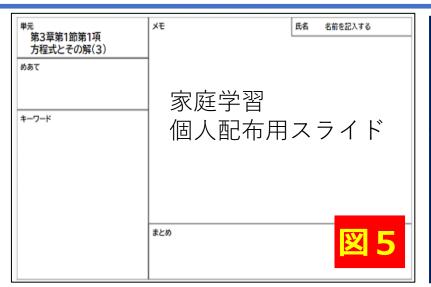
【取組内容②】・授業当日の内容を見通し、主体的・対話的で深い学びへ導く工夫。



・家庭学習において、個人配布用スライドに教科書を通読しポイントと考えられる場面を「メモ」欄に記入、さらに「めあて」を考えておくよう指示する。(図5)例題の解説動画を視聴し問題を解いておくように指示する。(図6)教師はファシリテーターとして個別最適な学びを進めるにあたり、生徒一人一人の進度や理解の状況が確認できる。生徒はシートを使い、式の性質のどれを使えばよいか、なぜそう考えたのかをそれぞれの言葉で表現し共有する。協働的な学びの中で他者の考えを学ぶことができる。また、評価についても生徒が具体的に確認することができる。(図7)このことは、学習者を育てることになり、主体的・対話的で深い学びにつながっていく。

